

登録コード	TSX20500	開講年度	2026				
授業科目	建築構造設計学実験Ⅲ					担当教員	松田 昌洋
英文授業名	Structural design experiment 3					副担当	
単位数	4	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	建築学分野2年生
講義室				授業形態	実験	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 TSカリ, 2 5 TSカリ, 2 4 TSカリ, 2 3 TSカリ						
	【専攻】環境調和社会, 知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力					⇔	木造建築物における耐力壁や接合部などの構造性能を実験や解析によって把握することができるようになる。 木造建築物の挙動を実験や解析によって分析し、建物の安全性を確保することができるようになる。
(2)授業の概要	木造建築物の構造設計や耐震診断に関する基礎知識を前提に、耐力壁や接合部、建物全体の挙動を実験や解析によって把握する。その結果をふまえ、建物の安全性を確保するための課題や方法について分析し、定期的なディスカッションを通じて研究論文へと発展させる。						
(3)授業計画	第1回～第5回：耐力壁の実験及び解析による性能把握 第6回～第8回：耐力壁の実験及び解析結果の分析 第9回～第10回：耐力壁の分析結果の発表、ディスカッション 第11回～第15回：接合部の実験及び解析による性能把握 第16回～第18回：接合部の実験及び解析結果の分析 第19回～第20回：接合部の分析結果の発表、ディスカッション 第21回～第25回：木造架構の実験及び解析による性能把握 第26回～第28回：木造架構の実験及び解析結果の分析 第29回～第30回：木造架構の分析結果の発表、ディスカッション						
(4)成績評価の方法	課題やディスカッションへの取り組み及び成果物の内容により総合的に評価する。						
(5)成績評価の基準	実験や解析によって木造建築物の挙動を把握し、安全性を確保するための課題や方法について分析できれば「水準にある」。自主的に実験、解析、分析を進めることができるかどうか、新たな提案を導くことができるかどうかに応じて「やや上にある」、「かなり上にある」、「卓越している」と評価する。						
(6)事前事後学習の内容	1単位当たり『45時間から授業時間を引いた時間量』の自主学習時間（予習・復習）が必要である。						
(7)履修上の注意	特になし						
(8)質問,相談への対応	メールで対応する。 松田（mat@shinshu-u.ac.jp）						
(9)その他							
【教科書】	指定しない						
【参考書】	指定しない						